

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浜松市中区元浜町 新築工事	階数	地上11F
建設地	静岡県浜松市中区元浜町字一丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	110 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年7月9日
敷地面積	562 m ²	作成者	IAO竹田設計
建築面積	315 m ²	確認日	2019年7月9日
延床面積	2,637 m ²	確認者	IAO竹田設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 68% (92 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 68% (92 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 68% (92 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 2

Q3 室外環境(敷地内): 2

LR1 エネルギー: 1

LR2 資源・マテリアル: 2

LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
浜松市内中心部、JR浜松駅より直線距離にして約1.2kmの好立地に建つ総戸数30戸のファミリー向け共同住宅である。高い容積率を確保しながらも、周辺との関係性を考慮し水平ラインを強調した意匠を軸とする、全邸南向きの快適性の高い居住環境を目指した。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
南側バルコニーには大きな開口部を設け、十分な採光・通風を確保している。また開口部は複層ガラスにより遮断性能を確保し、快適な住環境を確保している。	建物を長期利用できるような日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。仕上げ材には、耐用年数が高いものを採用している。	敷地が狭くやむを得ずゆとりのない配置計画となっているが、可能な限り緑地等を設けることで雨水が極力外部に流出しないよう配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
ノンフロン断熱材を採用することで、環境に配慮しながらも断熱外皮性能は等級4を確保している。	節水・節湯器具の採用により環境負荷低減に寄与している。	全住戸に配慮する給湯器をオール電化対応の設備機器とすることで、環境に配慮した設備計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)浜松市中区元浜町 新築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度							
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価				
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.8	/5				ふつう	
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.9	/5				がんばろう	
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.0	/5				がんばろう	
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.0	/5				がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)		得点	3.8
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たす。 ④住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を満たす。 ④内装用の耐用年数を15年程度としている。 ④設備配管の耐用年数を20年程度としている。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	屋光利用設備	
	3.2 3.2.1 ③	昼光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数	
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔		
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥少ないながらも地表面へ可能な限りの緑化を行っている。	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出	
3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上		
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率運用) ⑦住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たす。	LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
2 ⑧	自然エネルギー利用		
3 ⑨	設備システムの高効率化		
4 4.1 ⑩	モニタリング		
4.2 ⑪	運用管理体制		
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便器を採用している。 ⑫躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。	LR-2 1 1.1 ⑪	節水	
1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無		
2 2.1 2.1.1 ⑫	雑排水等利用システム導入の有無		
2.1.2 ⑫	材料使用量の削減		
2.1.3 ⑫	既存建築躯体等の継続使用		
2.1.4 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
2.1.5 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
2.1.6 ⑫	持続可能な森林から産出された木材		
3 3.1 ⑬	部材の再利用可能性向上への取組み		
3.2 3.2.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用		
3.2.2 ⑬	消火剤		
3.2.3 ⑬	断熱材		
⑬	冷媒		
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭少ないながらも地表面へ可能な限りの緑化を行っている。	LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮	
2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善		
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)		得点	2.9
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯静岡県地震地域係数1.2倍を満たす。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	電気設備	
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)		得点	2.0
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画としている。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲少ないながらも地表面へ可能な限りの緑化を行っている。	Q-3 3 3.1 ⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)		得点	2.0
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ㉒少ないながらも地表面へ可能な限りの緑化を行っている。	Q-3 1 ⑳	生物環境の保全と創出	
	2 ㉑	まちなみ景観への配慮	
	3 3.2 ㉒	敷地内温熱環境の向上	
■敷地外環境対策 (㉓温熱環境悪化の改善) ㉓少ないながらも地表面へ可能な限りの緑化を行っている。	LR-3 2 2.2 ㉓	温熱環境悪化の改善	